

再評価調書(再々評価)

事業名	一級河川落堀川 河川改修事業			
担当部署	都市整備部河川室河川整備課中小河川G(06-6944-9297)			
事業箇所	松原市大堀(東除川合流点)地先～藤井寺市大井地先			
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	落堀川については、流域の開発が著しく、水田や溜め池が埋め立てられて都市化されたことにより浸水被害が発生しやすい区域となっている。また現在大和川の背水に対応した堤防高が確保できていないため、洪水による被害を防止し、豊かな生活環境を築くため河川改修を進める。		
	内容	【全体計画・河川整備計画】 河川延長 L=約3.7km(うち大和川背水対策延長約2.3km) 目標流量: 90m ³ /s(1/10年確率 時間雨量50ミリ程度) 護岸工3.7km, 道路橋:13橋, 堰:9基		
	事業費 ()内の数値は前回評価時点のもの	全体事業費: 約34.5億円(約34.5億円) うち投資済事業費: 約20.2億円(約17.8億円) (内訳) 調査費約3億円(約3億円) (内訳) 調査費約1.4億円(約1.2億円) 用地費約1億円(約1億円) 用地費約0.1億円(約0億円) 工事費約30.5億円(約30.5億円) 工事費約18.7億円(約16.6億円)		
	事業費の変動要因	【事業費の変動理由】 変更なし	【工事費の内訳】 護岸工 約15.5億円 道路橋 約10億円 堰 約5億円	
	維持管理費	約17百万円/年(実績等に基づく算定)		
	上位計画	大和川水系西除川ブロック河川整備計画(H17.5) 「大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版」(H17.3)		
	関連事業			
	経過	事前評価時点(S61)	再評価時点(H15)	再々評価時点(H20)
事業採択年度	S61	S61	S61	工期が延びたのは用地交渉が難航しているためだが近年地元協議で理解が得られている。
事業着工年度	S61	S61	S61	
完成予定年度	H20	H20	H27[H27]	
進捗状況	全体計画・整備計画 整備延長(1/10年確率) L=3.7km 整備延長(大和川背水対策) L=2.3km	全計・整備計画 整備延長(1/10年確率) L=3.7km(100%) 整備延長(大和川背水対策) L=1.8km(78%)	用地 13% 205m ² /1580m ² 工事 61% 全計・整備計画 整備延長(1/10年確率) L=3.7km(100%) 整備延長(大和川背水対策) L=1.9km(83%)	大和川背水対策が全川完成しないと氾濫防止効果が図れないが、着実に事業の進捗を図っている。早急に一連の背水対策を完成させることが必要。
今後の事業進捗の見通し	現在、自己流での流下能力は100m ³ /s以上であり、1/10年確率の大雨による洪水を安全に流下させる事に対応できるが、大和川の計画高水高と比較して現況堤防高が低いので、河川整備計画に従い大和川の背水対策として嵩上げをおこなう。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】特になし。			

事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
	河川事業 ・氾濫防止面積: 220ha ・浸水戸数: 約3,500戸	河川事業 ・想定氾濫区域: 102ha ・浸水戸数: 約3,900戸	河川事業 ・想定氾濫区域: 102ha ・浸水戸数: 約5,060戸	想定氾濫区域内の人口増加に伴い浸水戸数が増加した。
事業を巡る社会情勢の変化		背水対策に対して協力的である。	同左	概ね順調に推移している。
地元等の協力体制				

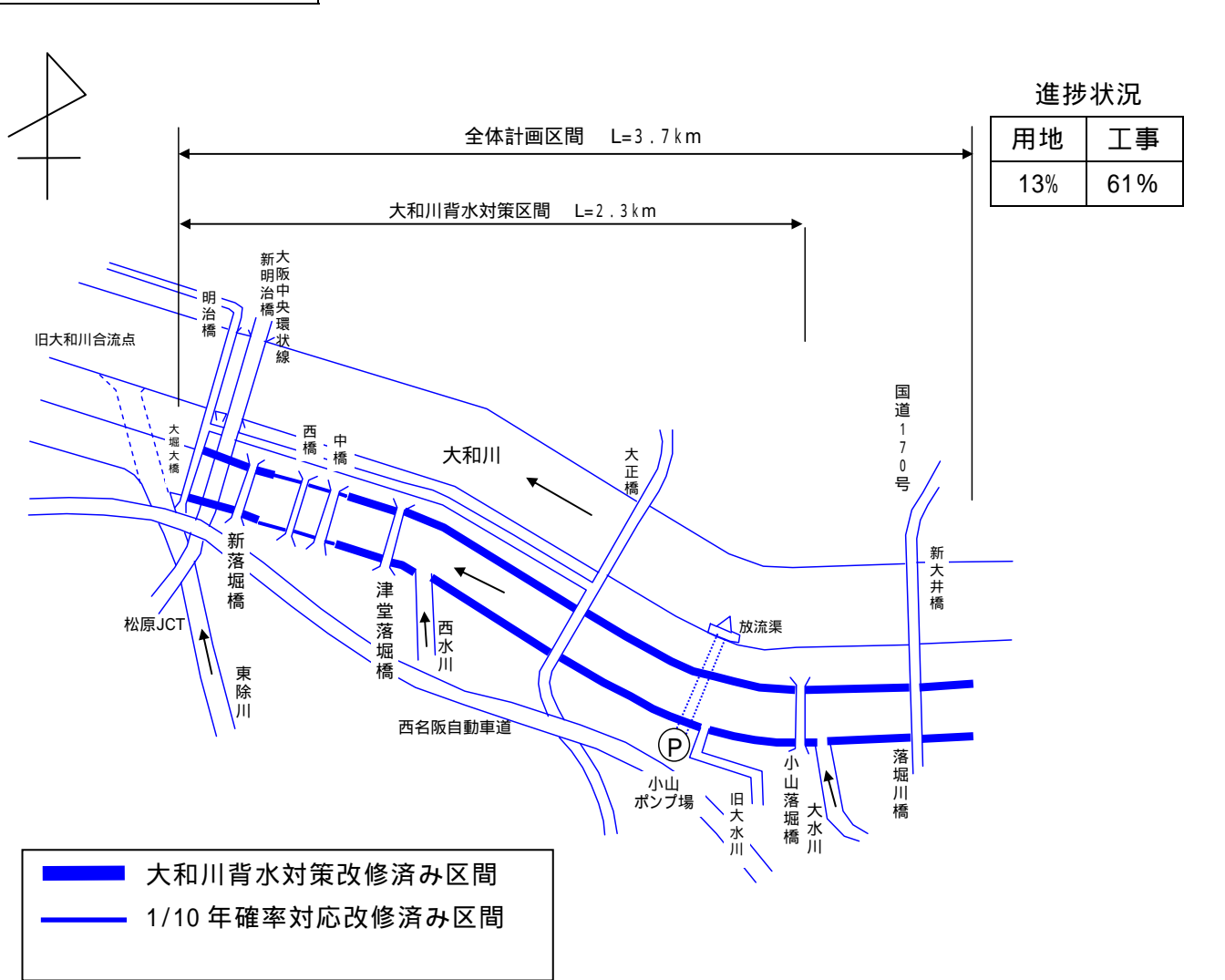
	事前評価時点での想定		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析
		備考			
事業効果の分析	費用便益分析	下記、代替指標による	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 2.97 便益総額 B = 106.8億円 総費用 C = 36.0億円 ・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) 平成12年5月 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 2.56 便益総額 B = 91.3億円 浸水被害軽減便益 91.3億円 総費用 C = 35.7億円 建設費 30.9億円 維持管理費 4.8億円 ・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月 	B/Cが前回評価時に比べ低下したのは家庭人口は増えたが事業所数が減じたため。
	その他の指標(代替指標)	<ul style="list-style-type: none"> C / B = 1.8 年平均被害軽減額 B = 8.7億円 総事業費 C = 15.2億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便益内容: 資産被害抑止効果 ・ 受益者: 周辺住民、農業従事者 ・ 事業効果の算定根拠: 「河川局所管国庫補助事業に係る全体計画の認可について」の運用について 		
	定性的分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水被害の軽減(生命・財産) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水被害の軽減(生命・財産) ・ 自然環境(生態系の保全) ・ 景観(周辺地域と調和した水辺景観) 	同左。	大和川の背水対策で、周辺景観との調和が取れた現況護岸の嵩上げの設置が行われている。
自然環境等への影響と対策	(計画時には想定されていない)		整備にあたっては、自然環境に配慮した工法を採用する。東除川合流点～西橋下流区間の薄層流浄化施設の設置を行うとともに、西水川に直接浄化施設の設置・大井処理場からの高度処理水の導入を行い、水質改善を図る。	同左	H13年度に策定された「大和川清流ルネッサンス計画」に基づき、水質の改善を図る。
その他特記すべき事項				河川の水位情報、浸水想定区域公表。	
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	<ul style="list-style-type: none"> 【意見具申】 【府の対応方針】 		<ul style="list-style-type: none"> 【意見具申】本事業については、「事業実施は妥当」と判断する。 【府の対応方針】『事業実施』とする。 	(前回評価に対する具体的な取組み) 引き続き事業の進捗に努める。	

一級河川落堀川 河川改修事業概要図

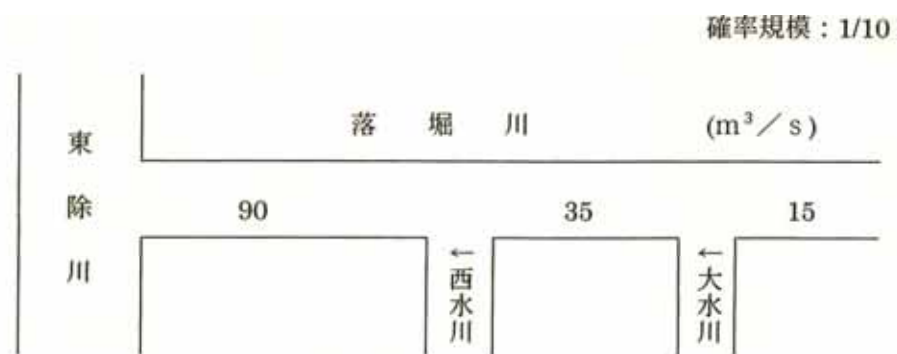
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

